
問題類別ごとの 問題解決アプローチと事例

カテゴリー

I .労働安全の仕組みに見られる問題点

■ 行動指針を「存在を知らしめ」「内容を知ってもらい」「常に立ち返る」ことで徹底活用する。

良く見られる問題点

- 過去の労働災害事故の反省から、自社で安全を維持するための基本動作を定め、「○つの安全基本動作」「安全○原則」「安全○則」などを作成するが、有効に活用されていない。

安全五原則

1. …
2. …
3. …
4. …
5. …

- ・職場に貼り出しているだけ。
- ・誰も存在や内容を知らない。

問題点の解説

なぜダメなのか？背景にある要因は何か？

- 以下のような問題が背景にある。

そんなのあったんだ。

行動指針を作成しても、作りっぱなしで、意識的に従業員の目に触れさせていない。

どんな内容だったかな。

職場に貼り出すなど、従業員の目に触れるようにしても、ちょっと見て、そのまま素通りされる。

それがどうしたの。

言っていることは分かるが、それに反することで、どのような問題が起きうるのかの認識が薄い。

解決の方向性

- 以下を踏まえ、行動指針の徹底活用の方法を検討する。

存在を知らしめる

行動指針の存在を事あるごとに示す。

内容を知ってもらう

行動指針の内容に触れ、知ってもらう。

常に立ち返る

労働災害事故発生の背景に、行動指針に反した行動がなかったかを振り返り、検証する。

Before ■現状問題点**【 ○○社 安全五原則】**

- おかしい？と思ったら、作業しない
- あぶない！と思ったら、まず止める
- わからない作業はしない、させない
- 動いている機械にはさわらない
- 「安全第一」、なによりも安全が最優先

・作成されてはいたが、有効活用されていなかった。

2021年度 安全衛生委員会

After ■施策の概要と狙い、効果

存在を知らしめる

毎朝の朝礼で復唱する。

内容を知ってもらう

事故報告書の原因追究の一環で、事故発生背景に、安全五原則に反していた事実がなかったか検証し、反していれば、安全五原則の周知徹底を図る。

常に立ち返る

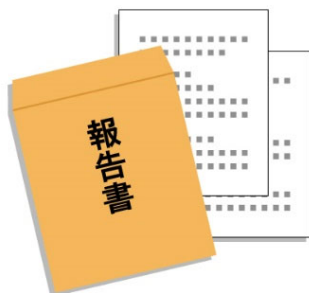
**コンサルタント一言コメント**

- ・各社で、安全を維持するための基本動作を行動指針としてまとめている会社は多いが、有効活用されていない。
- ・従業員のみなさまの日々の作業における指針となるべく、内容を周知するとともに、その不遵守が労災事故の背景にありうることを意識させる。

■ 事故報告書の内容を検証する役割を定め、徹底した再発防止を図る。

良く見られる問題点

- 事故報告書が応急処置の報告の意味合いが強くなっている。



応急処置の報告の意味合いが強いと・・・

- ・早く報告することに気を取られ、原因追究が不十分になる。
- ・原因追究が不十分だと対策も不十分になる。
- ・応急処置が済み、一段落すると、その後の再発防止の検討がおざなりになる。

問題点の解説

なぜダメなのか？背景にある要因は何か？

- 以下のような問題が背景にある。

事故報告書に、原因追究や再発防止の検討をできるようなしかけがない。

事故報告書が関係部署に回覧されているが、原因や対策の妥当性を検証する役割が明確になっていない。そのため、回覧されても、そのまま確認印が押されて、流されることもありうる。

解決の方向性

原因追究や再発防止の検討ができるしかけを行う。

事故報告書の内容の妥当性を検証する部門や役割を明確化する。

- ・原因を書く欄を設ける。
- ・どのような視点で原因追究するかガイドを設ける。
 - 「本来どうすべきか」から原因を追究。
 - 行動指針に反していなかったか確認。
 - 例えば、「機械・設備」「人」「作業環境」「安全衛生管理」面など要因追究視点を示す。
- ・再発事例かどうかの検証、水平展開の必要性を検討する欄を設ける。
- ・安全管理部門や安全衛生委員会の中で、原因や対策の妥当性を検証する役割を明確にする。

Before ■現状問題点

事故報告書			
報告者	事業所名	氏名	生年月日
被災労働者	フリガナ	氏名	年齢
	入社年月日	8	勤続年数
	住所		
	職種		
	発生日月	原因と状況(いつ、どこで、誰が、何を、どのようにして、どうしたか)	
原因と状況			

株式会社

・原因と状況を書く欄が同じになっていて、原因が十分に追究しきれていない。
・再発事象の検証や水平展開の可能性が追究されていない。
・原因と対策の内容が妥当かどうか検証されていない。

After ■施策の概要と狙い、効果

発生年月日		令和	時刻	頃
状況(いつ、どこで、誰が、何を、どのようにして、どうしたか)				
本来どうすべきだったか		「本来どうすべきだったか」から原因を追究		
考えられる要因		原因		
事故状況	過去の事例 有・無 (有った場合は対策も記入) (過去に同様の事故は発生していないかを確認。その対策が実行されていたかを確認)			
安全衛生委員会の見解 (安全管理者記入)	再発事象かどうか検証 緊急安全衛生委員会を開催、内容検証		再発事故の検証 緊急安全衛生委員会	
安全五原則でどの項目に該当するか? (安全管理者記入)	① おかしい?と思ったら、作業しない ② あぶない!と思ったら、まず止める ③ わからない作業はしない、させない		④ 動いている機械にはさわらない ⑤ 「安全第一」、なによりも安全が最優先	
水平展開の必要性 (有・無) ※有の場合は方法記載 (安全管理者記入)	行動指針に反してなかったか確認 水平展開の必要性を検討		安全五原則 水平展開	



コンサルタント一言コメント

- ・労働災害ゼロは目指す理想ではあるが、まずは再発事象をなくすことが重要であり、現実的な目標となりうる。
- ・そのためには、原因追究をしっかり行い、再発事象かどうかの検証と水平展開を効かせることを目指すべきである。

カテゴリー

Ⅱ.業務オペレーションに見られる問題点

■「長期的視点の発掘」「最悪のシナリオを想定」「注意しなくても良い」の3要素。

良く見られる問題点

- 労働環境に関する問題は、一つ一つは些細と思われがちな問題が多く、あえて意識しないと問題が放置され易い。なぜなら明日すぐ問題が発生するのではなく、長年蓄積し発生するタイプなので、問題を先送りにされる場合が多い。
- また「現場にありふれている」または、「あきらめている」状態により問題が顕在化されない事もある。
- 組織の意識として、仕事だから仕方のない事と放置され易い。さらには、作業者の年齢や聴覚障害等による個人差の考慮を忘れがちとなる。

問題点の解説

なぜダメなのか？背景にある要因は何か？

- 疲労やストレスを感じることが少ない快適な職場環境の形成。および作業者の有する能力の有効な発揮や、職場の活性化に資する必要がある。マニュアルやルール作りを解決策としている職場も多いが、これは注意しなければならない環境であり、ストレスの高い職場であると認識すべきである。
- 「これくらいなら、人が注意すれば大丈夫」と考えたり、成人・健常者を対象として考えてしまい、本当の問題を放置してしまうケースがしばしば見受けられる。

解決の方向性

- 心身に負担の大きい作業の軽減を念頭に“人はミスするもの” “人は長時間集中できないもの” “長期の負担は蓄積するもの”と考え対処すべきである。問題点を一つでも多く改善する事が人にやさしい職場と言える。
- 快適な職場環境の形成としては、⇒**現状把握（調査・意見・要望）**⇒**要因分析**⇒**要因撲滅**⇒**快適職場条件設定**⇒**快適職場条件管理**のサイクルを常に回す必要がある。さらに、見つけるため(パトロール)の予見能力の向上も必要である。“危険源を特定し、危険源と人の接触を予想し、予測される最悪のシナリオを想定する”ことは見逃しや、想定外を防ぐために重要である。

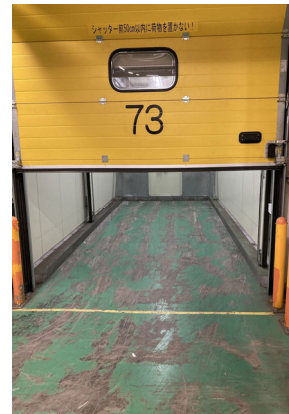
Before ■現状問題点

- 室内に作業者がいる事に気が付かず、リフトが侵入する可能性あり人とリフトの接触の危険あり。
- ローカルルールはあるが守りにくい・・・
- 何故なら 半開きにするためドアの開閉スイッチを押し続けなければならない⇒手間⇒守らない

※改善前の入出ルール

- ① シャッター半開き(数秒必要)
- ② 札掲示

① 入口シャッターは半開き
※荷物の出し入れ時は全開



② “加工部検品中”の札を手動でぶら下げる



After ■施策の概要と狙い、効果

- 室内に作業者がいる事を、赤のライトアップにて知らせる。
これによりワンタッチ化になり、守り易いルールになった。
- 室内で作業していても、安心できるようになった。
- リフトの運転手も赤いランプにより認識性が向上した。

※改善後の入出ルール

- ① スイッチON



お知らせ用の赤いライト
認識性の向上



コンサルタント一言コメント

- ・職場の特性上、人とリフトの領域を残念ながら分けられない。よってルールの守りやすさ、および人の認識性の向上をねらい改善した。ライトはワンタッチで済むので楽である。またリフト側も赤のライトは信号と同じ配色であり、感覚的に進入禁止を理解しやすい。

Before ■現状問題点

- 滑り止め目的でステップの手前側に棒を溶接してあるが、棒を踏むことで横滑りをしやすくなっていた。



階段に棒が溶接されているため横方向に滑る



After ■施策の概要と狙い、効果

- 既存の階段に手を加えた更新工事。
- 他部署で採用している『スベランナー』を使用。

期待効果

横滑り、転倒防止



コンサルタント一言コメント

- ・直近で転倒事故も発生していなく、問題視していなかったが滑り止め対策の不備も見つかった。安全パトロールによる視察の重要性を再認識した事は大切である。今後は他部署との安全対策連携、水辺展開が重要。

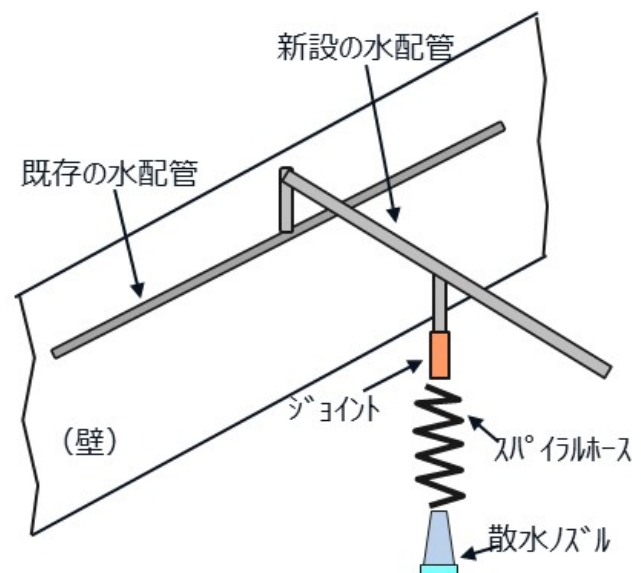
Before ■ 現状問題点

- 作業に使用する水の取り口が、壁側に設けられている。
- その取り口に水ホースが床に這わせて、接続してある。
- 作業者が水ホースに、足を引っかけるリスクがある。



After ■ 施策の概要と狙い、効果

- 壁側に設けられた水配管から分岐して、天井に新たに水配管を設ける。
- 水の取り口のジョイントに、スパイラルホースを接続する。
- 水ホースが床を這うことは皆無となり、足を引っかけるリスクは撲滅された。



コンサルタント一言コメント

- ・水ホースの改善であったが、電気コードや他の配管等も含めて、取り口は天井および床下に設けることを、工場設計の標準にすると良い。

Before ■現状問題点

- 調味エリアは中二階にある。
- 調味料を手にとって、幅の狭い階段を昇って運んでいる。



写真1 階段の登り始め



写真2 階段の登り途中

After ■施策の概要と狙い、効果

- 簡易リフト（荷揚げ機）を、写真2の床の右側に設置した。
- 調味料をリフトに載せて、リフトを上昇させて取り出す。
- 効果：重筋作業の軽減・・・軽減率 ▲75%



写真3 リフトに載せる



写真4 リフトから取出す



コンサルタント一言コメント

- ・20kgある物を両手で持って、幅60cmほどの狭い階段を昇るのは、大変な重筋作業である。
- ・運搬方法を機械化したことで、重筋作業の軽減が図れた。

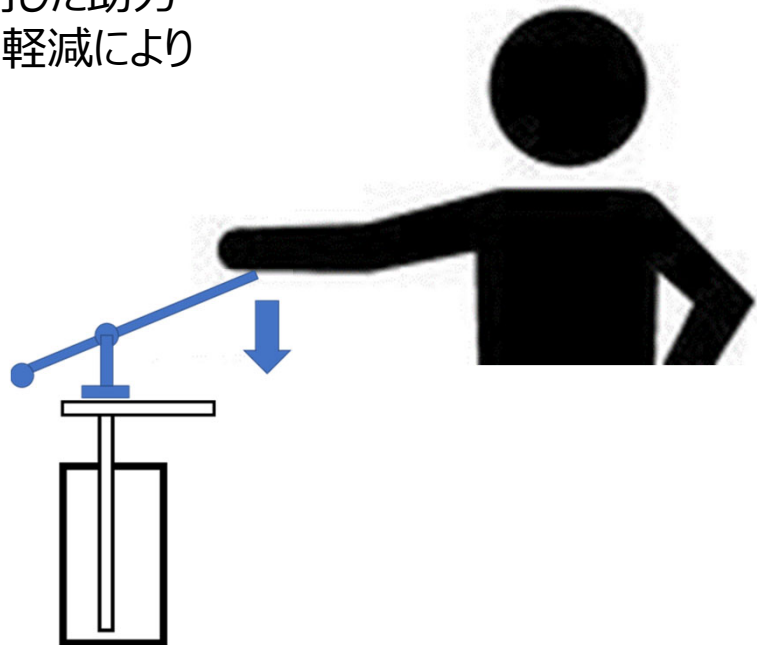
Before ■現状問題点

- 店舗従業員は、各種商品作成時に数回ポンプを押す作業が発生しており、またポンプには戻り用に、スプリングが内蔵されている。
- ポンプの内容物は、粘度が高く、特に冬場は低温のために粘度が高くなる。
- 多い場合 1 日数百回押す作業があり、手首に負担がかかっている。



After ■施策の概要と狙い、効果

- ポンプにてこの原理を活用した助力装置を設置し、押す力の軽減により腱鞘炎の予防を計る。



コンサルタント一言コメント

- ・動力等を使用しない、簡易的なからくりを活用することにより従業員の手首に対する負担を軽減することが出来ている。